

ふなばしみやうら

船橋宮裏遺跡 (本発掘調査B)

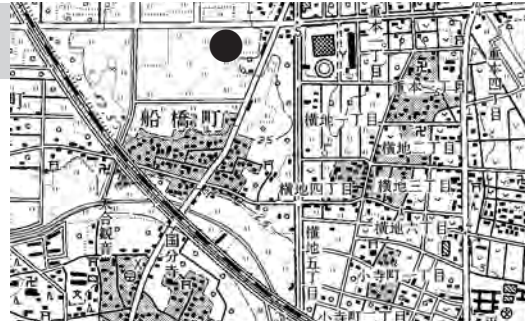
所在地 稲沢市船橋宮裏町地内
(北緯35度14分54秒 東経136度46分37秒)

調査理由 道路改良事業 ((一) 津島稲沢線)

調査期間 令和5年1月～3月

調査面積 560㎡

担当者 堀木真美子・武部真木



調査地点 (1/2.5万「清洲」)

調査の経過 調査は、道路改良工事 ((一) 津島稲沢線) に伴うものであり、愛知県建設局道路建設課 (一宮建設事務所) から愛知県県民文化局を通じた委託事業として行った。令和5年1月～3月の期間に面積560㎡の発掘調査を行った。

立地と環境 遺跡は稲沢市の中心部を流れる三宅川の右岸自然堤防上に立地する。南へ約1kmの距離には尾張国分寺跡、同じく西には尾張国分尼寺推定地である馬場・法花寺遺跡をはじめ古代の遺跡も多数が分布する。

平成3年に発掘調査が行われた遺跡の北部では、火葬施設および方形や円形土壇からなる墓域が確認され、15世紀頃の集落縁辺部の景観がうかがわれた。このときの調査では、遺跡の立地する微高地範囲は南北に細長く、三宅川右岸域に分布する中世遺跡のうちでは西端にあたと指摘されている。

調査の概要 今回の調査地点は旧調査地点から南西に50mほど離れた場所にあり、現況是水田耕作地となっている。調査区内を南北に通る現況大畦の東側・西側とでは堆積状況の違いが認められ、また西側と南側への地形の傾斜が確認できる。明確な遺構は少なく遺物も希薄という状況から、遺跡範囲の南西端と考えられる。

まとめ 検出レベルや堆積状況は、旧調査地点の西部 (水田地区) での様相とほぼ同様である。居住域としての土地利用には適さず、また広く削平を受けているとみられる。 (武部真木)



遺跡遠景 (西から)